

古今の星座の違いを示す星座盤の作成

古墳時代の日本は現代の星座とは違う星座を空に描いていた。
その星座はどこから来てどのようにして伝わったのだろう。（河津秀明）

研究の目的

- ・ 現代の星座と古代の星座の対応が分かる星座盤を作る
- ・ 当時の観測技術の低さや大陸間の移動により星座の形が様々であるものを対応比較する
- ・ アプリケーション化し、よりビジュアル的な教育教材を作成する

オリオン座の形の比較

- ・ オリオン座：冬の星座の一つで比較的見つけやすい

福原考古学研究所論集第六より



星座の起源

- ・ 起源
 - ・ 紀元前1300年頃～1000年頃のメソポタミア
- ・ メソポタミア→ギリシア→現代日本へ
 - ・ 紀元前6世～4世紀に伝わったとされるが信憑性低い
- ・ 古代中国→古代日本へ
 - ・ 紀元前5世紀末以前に成立
 - ・ 地上の世界を天上に当てはめている

オリオン座の形の比較

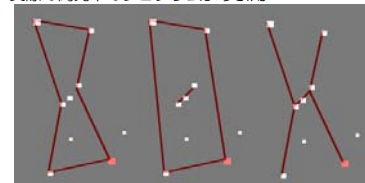
- ①南宋最末期に、平江府(現在の蘇州)に揃って建てられた石碑の拓本
- ②遼代後期の漢族の墓室是北京、大同、宣化などに多い埋葬年代は、約1093年(張八正墓)～1117年(張世古墓)までで一号墓は張世卿
- ③、④呉越は、907～978年に中国・五代十国時代に杭州を中心に浙江省を支配
- ⑤トルファン近郊のアスターナ古墳から出土
- ⑥唐は、618～907年に栄えた中国の王朝
- ⑦伊世同氏による天文図

古代日本星座（7～8世紀）

- ・ 星宿
 - ・ 星座のこと。起源は古代中国
- ・ 二十八宿
 - ・ 天の赤道帯を28分割し、作られた体系
- ・ 28分割の由来
 - ・ 月が天を一周する周期が27.3日のため
 - ・ 土星が天を一周する周期が28年のため(当時、見かけ上はそうだと考えられていた。)

オリオン座の形の比較

- ・ 拡大比較
- ・ 実際の開発中のプログラムより引用



古代星宿の発見

- ・ 高松塚古墳（694～710年）
 - ・ 1972年に発掘される
 - ・ 彩色された壁画、天井画が発見される。そこに描かれていたのが星宿
- ・ キトラ古墳（704年～8世紀初め）
 - ・ 1983年に発掘される
 - ・ 石室にて高松塚と同様に壁画天井画が発見される

今後の課題

- ・ ターゲット
 - ・ 小学生高学年から中学生までを対象とし、古天文学に興味を持つように開発する
 - ・ 簡単で分かりやすい操作にし、親しみやすいデザインを採用する
- ・ Webで公開し利用可能にする

高松塚古墳壁画の概要

